

JAL 被解雇者労働組合（JAL 争議団）

info@jhu-wing.main.jp

<https://jhu-wing.main.jp/>

争議解決なくして安全なし！



520名の尊い命が失われたJAL 御巣鷹山事故から今年で37年目です。8月11日、JAL 被解雇者労働組合と「JAL 争議の早期全面解決をめざす実行委員会準備会」の主催で羽田空港スタンディングアピールが130名の参加で行われました。また、8月12日、松山空港で「JAL 不当解雇とたたかう愛媛原告を支える会」主催で、そして、JR 岡山駅でも「JAL 争議を支援する岡山の会」主催で宣伝行動が行われました。

JAL の事故多発の背景には安全より利益を優先し、モノを言う労働組合を排除してきた異常な労務姿勢がありました。そして、123 便事故後に掲げた4つの誓いは生かされることなく、不当解雇が強行されたのです。今年も赤坂社長は慰霊の園で何を思って手を合わせたのでしょうか。今、JAL に求められているのは、不当な解雇争議を全面解決し、「絶対安全の確立」「現場第一主義」「公正明朗な人事」「労使関係の安定・融和」の4つの誓いを実行することです。

争議団の規模は三分の一になりましたが、納得いく解決を求めて闘いは続いています。



羽田空港



帰省客がピークの羽田空港、到着ロビー階の外側で横断幕やプラスターを掲げ、JAL 争議が継続していることをアピールしました。

JAL の企業体質は大事故が起きた後も、そして破綻しても全く変わっていません。憲法違反までして、モノを言う労働者を解雇した争議は12年放置されたままです。



松山空港



松山では2015年から毎年8月12日、午前8時半からアピール行動を続けています。JALの身分証明書を下げた女性がやってきて、何か言いたそうだった。当該が「毎年、空港で宣伝をさせて頂いております。是非私たちの訴えをお聴きください。私たちは大切なお客様と仲間を520名も失いました。航空会社の使命は安全。二度とあのような事故を起こしてはいけません。」と言うと、彼女は一言も返さなかった。

数名の通行人が「テレビで見ました。もう37年経つのですねえ」と。朝早くから駆け付けてくださった支援者の皆様に感謝です。

岡山駅

岡山では2010年の解雇強行前から「解雇はするな！」の宣伝をスタート、以来、宣伝はずっと続けられています。岡山駅西口に13名の仲間が集まってくださり「空の安全第一は航空会社の使命、御巣鷹山事故から37年JALはベテランを職場に戻せ」と書いた横断幕を掲げました。

キャリーバッグを持った家族連れの人達が横断幕に目をやりながら、ポケットティッシュ入りビラを受け取っていただきました。37年前の今日もきっと蒸し暑く、岡山駅は帰省客や観光客でごった返していただろうと思います。空の安全の大切さを噛みしめた45分間でした。



私たちは「安全の基盤」を強固にするため
解雇争議の解決が不可欠であると確信します